

令和
6
年度

いよびのおまじ

2

教師用



みなさん、
いっしょに べんきょう
しましょうね。



ことばのきまり
イメージキャラクター
ことちゃん

もくじ

一	かん字の書き方	1
二	かたかなで書くことば	6
三	気もちをあらわすときにつかうことば	13
四	丸(。)、点(。)、かぎ(「」)	14
五	主語とじゅつ語	16
六	なかまになることば	25
七	数をあらわすことば	26
八	かん字の読み方とおくりがな	28
九	はんたいのいみのことば	30
十	声に出してみよう	31
十一	同じところのあるかん字、かたちのにているかん字	33
十二	組み合わせたことば	35

表紙 岡崎

カット 幸田

新城 豊橋

浅井 優子先生
成田 綾香先生
嶋田 佑子先生
大須賀 貞治先生
河合 桂子先生
渡邊 満佑子先生
竹本 陽子先生



第二学年 「ことばのきまり」と教科書の関連表

「新しい国語」二年上下 東京書籍（令和六年度版）

		ことばのきまり										教科書	巻	ページ						
一	かん字の書き方	画・画数・筆順	かん字の書き方																	
二	かたかなで書くことば	かたかな表記の言葉 外国語 外国人名・地名 擬音語	かたかなで書くことば																	
三	気もちをあらわすときに つかうことば	形容詞等	こんなことをしているよ																	
四	丸（。）、点（、）、 かぎ（「」）	句読点 かぎ（「」）	丸（。）、点（、）、かぎ（「」）																	
五	主語とじゅつ語	名詞 動詞 主語・述語	ものの名前をあらわすことば 主語とじゅつ語 人がすることをあらわすことば																	
六	なかまになることば	上位語・下位語	なかまになることば																	
七	数をあらわすことば	数詞	かん字をつかおう																	
八	かん字の読み方と おくりがな	送りがな	かん字の読み方とおくりがな																	
九	はんたいのいみのことば	対義語	はんたいのいみのことば																	
十	声に出してみよう	音節・同音異義語	声に出してみよう																	
十一	同じところのあるかん字、 かたかのにているかん字	部首・形	かん字をつかおう																	
十二	組み合わせたことば	複合動詞																		



「ことばのきまり」学年別指導内容一覧表

第一学年		第二学年		第三学年	
項	もくじ	項	もくじ	項	もくじ
一	ことばあそび 1	一	かん字の書き方	一	国語じてんの使い方
二	ことばあつめ 1	二	かたかなで書くことば	二	漢字の表す意味
三	にごる おん	三	かたかな表記の言葉	三	漢字の表す意味
四	ぶんを つくろう	四	擬音語 外国語	四	漢字の多義性
五	くつつきの「は・へ・を」	五	外国人名・地名	五	慣用句
六	てんと まる	六	形容詞等	六	指示語
七	つまる おん はねる おん	七	句読点	七	音訓
八	ことばあつめ 2	八	かぎ(「」)	八	送りがな
九	ことばあそび 2	九	丸(○)、点(・)、かぎ(「」)	九	三句十七音
十	のばして よむ ことば	十	主語とじゅつ語	十	季語
十一	ちいさい「や」「ゆ」「よ」	十一	なかにまになる ことば	十一	俳句に親しもう
十二	音や ようすを あらわす	十二	数を あらわす ことば	十二	くわしく表す言葉
十三	擬声(音)語	十三	かん字の読み方と	十三	漢字の組み立てと意味
十四	漢数字	十四	おくりがな	十四	部首
十五	象形文字・指事文字	十五	送りがな	十五	漢字の構成
十六	促音・長音・拗音	十六	はんたいの いみの ことば	十六	大文字・小文字
十七	シとツ・ソとン	十七	対義語	十七	長音・拗音・拗長音・促音等
十八	曜日 日付	十八	音節・同音異義語	十八	
十九	曜日 日付	十九	部首・形		
二十	上位語・下位語	二十	同じところのある		
二十一	曜日	二十一	かん字、かたちの		
二十二	曜日	二十二	かん字		
二十三	上位語・下位語	二十三	組み合わせた ことば		
二十四	曜日	二十四	複合動詞		
二十五	曜日				
二十六	曜日				
二十七	曜日				
二十八	曜日				
二十九	曜日				
三十	曜日				
三十一	曜日				
三十二	曜日				
三十三	曜日				
三十四	曜日				
三十五	曜日				
三十六	曜日				
三十七	曜日				
三十八	曜日				
三十九	曜日				
四十	曜日				
四十一	曜日				
四十二	曜日				
四十三	曜日				
四十四	曜日				
四十五	曜日				
四十六	曜日				
四十七	曜日				
四十八	曜日				
四十九	曜日				
五十	曜日				



第四学年		第五学年		第六学年	
項	もくじ	項	もくじ	項	もくじ
一	漢字辞典の使い方	一	一 敬語	一	一 熟語の構成
二	ことわざ・故事成語を使う	二	二 漢字の成り立ち	二	二 文と文のつながり つなぐ言葉の使い分け
三	文の組み立てと修飾語	三	三 いにしえの言葉に親しもう いにしえの人のえがく世界	三	三 漢文に親しもう
四	つなぐ言葉	四	四 思考に関わる言葉	四	四 場面に応じた言葉づかい
五	じゆく語の意味	五	五 どうやって文をつなげれば いいの？	五	五 複合語
六	百人一首に親しもう	六	六 熟語の構成と意味	六	六 似た意味の言葉の使い分け
七	同じ読み方の漢字	七	七 和語、漢語、外来語	七	七 表現をくふうする
八	かなづかい	八	八 日本語と外国語	八	八 六年間の復習
九	文末の言い方	九	九 方言と共通語		
十	伝わりやすい文				
十一	ローマ字の書き方				
	部首索引		尊敬語・謙讓語 丁寧語		熟語
	ことわざ 故事成語		象形文字 指事文字 会意文字 形声文字		指示語
	主語・述語・修飾語		古文		接続語
	文と文の接続関係 接続詞 接続助詞		文末表現		敬語
	熟語		接続語		複合語
	五句三十一音 百人一首		和語、漢語、 外来語		類義語
	同音の漢字 同訓の漢字 同音異義語		語順		比喩・反復・倒置
	じ・ぢ・ず・づ 現代かなづかい		方言・共通語		
	文末表現				
	漢字かな交じり文 読点				
	大文字・小文字 長音・拗音 拗音長・促音等				



まよめのテスト

(使い方)

- 長期の休みに入る前の時期に、まよめのテストを実施する。
- 実施する頁を増し刷りして、使用する。
- 児童に自己採点させたり、教師が採点したりして、評価する。
- 定着が不十分なら、振り返って学習する。

二年まよめのテスト② (P16 ~ P29)

一 つぎの文の じゆつ語に 線を引きましょう。主語に 線を引きましょう。

(一) わたしは ないた。

(二) 子犬が 山を 走った。

(三) ほくは 友だちと あそんだ。

(四) はたけに ありがた たくさん いる。

三 [] に あてはまる ことばを [] の 中から えらんで 書きましょう。

(一) セミを セ [] ひき とりました。

(二) 画用紙を [] まい [] ずつ くばりました。

(三) げんかんに、くつが [] 足 [] あります。

足 まい ひき

※各十点 名前 [] 点 []

二 なかまに なる ことばを [] の 中 [] に 書きましょう。

(きせつのなかま)

秋	春
冬	夏

四 おくりがなに 気をつけて、つぎの かん字に 読みがなを つけま しょう。

生 [] (う) []

子犬が [] まれる。

草が [] (は) [] える。

二年まよめのテスト① (P1 ~ P15)

一 つぎの かん字の 点線の ぶぶんは 何画目で しょう。かん字で 書きましょ。

(一) 耳 (二) 画目 (二) 年 (三) 画目 (三) 女 (三) 画目

二 [] の ことばの 書き方が 正しい方に ○ を つけましょ。

(一) 電子レンジが チーンと 鳴った。

(二) 電子レンジが ちいんと 鳴った。

(三) 星が きらきら かがやいて いる。

(四) 星が キラキラ かがやいて いる。

(一) 小川が さらさらと ながれる。

(二) 小川が ギラギラ かがやいて いる。

(三) 小川が サラサラと ながれる。

(四) 雨が ザーザーと ふって いる。

(一) 雨が ザーザーと ふって いる。

(二) 雨が ザーザーと ふって いる。

三 つぎの (一) に あてはまる ことばを [] から 一つ えらんで 書きましょ。

(一) はつしよう会で ピアノを ひくので [] ときどきする ()。

(二) リレーで かけて () ぐやしい ()。

(三) [] ときどきする ぐやしい

四 「おはよう」 (丸とかぎ) を 書きましょ。

おはよう

※各十点 名前 [] 点 []

二年まよめのテスト③ (P30 ~ P36)

一 はんたいの いみを あらわす ことばを [] に 書きましょ。

(一) 右 ↓ [] 左

(二) 新しい ↓ [] 古い

(三) 太い ↓ [] 細い

(四) 立つ ↓ [] すわる

二 同じところの ある かん字を 書きましょ。

(一) 明 [] 月 [] 曜日です。

(二) 毎 [] 年 [] 海 [] 行きます。

三 二つの ことばを 組み合わせて 一つの ことばを つくりましょ。

(一) つむ 十 かさねる ↓ つみかさねる

(二) さがす 十 歩く ↓ さがし歩く

※各十点 名前 [] 点 []



二年まとめのテスト① (PI) (PI5)

※各十点
名前

点

一 つぎの かん字の 点線の ぶぶんは 何画目でしよう。かん字で 書きましよう。

(一) 耳 () 画目 (二) 年 () 画目 (三) 女 () 画目

二 ——— の ことばの 書き方が 正しい方に ○ を つけましよう。

(一) () ()
電子レンジが チーンと 鳴った。
電子レンジが ちいんと 鳴った。

(三) () ()
小川が さらさらと ながれる。
小川が サラサラと ながれる。

三 つぎの () に あてはまる ことばを

(一) はっぴよう会で ピアノを ひくので ()

(二) リレーで まけて ()

四 「。」 (丸とかぎ) を 書きましよう。

どきどきする
くやしい

おはよう



二年まとめのテスト② (P16 ~ P29)

※各十点
名前

点

一 つぎの 文の じゆつ語に 線をひき
 ましよう。 主語に 線をひき
 線をひきましよう。

- (一) わたしは ないた。
- (二) 子犬が 山を 走った。
- (三) ぼくは 友だちと あそんだ。
- (四) はたけに ありがとう たくさん いる。



- 三 [] に あてはまる ことばを [] の 中から えらんで 書きましよう。
- (一) セミを 七 [] とりました。
 - (二) 画用紙を 五 [] ずつ くばりました。
 - (三) げんかんに、くつが ニ [] あります。

足 まい ひき

二 なかまに なる ことばを [] の 中に 書きましよう。

〈きせつのなかま〉

秋

春



夏

[]

四 おくりがなに 気を つけて、つぎの しょう。 の かん字に 読みがなを つけま

生

草が (生 |) える。

子犬が (生 |) まれる。



二年まとめのテスト③ (P30 ~ P36)

※各十点
名前

点

一 はんたいの いみを あらわす ことばを に 書きましよう。

(一) 右 ↓

(二) 新しい ↓

(三) 太い ↓

(四) 立つ ↓

二 同じところの ある かん字を 書きましよう。

(一) あ
日は、 げつ
曜日です。

(二) まい
年、 うみ
へ 行きます。

三 ニつの ことばを 組み合わせて 一つの ことばを つくりましよう。

(一) つむ + かさねる ↓

(二) さがす + 歩く ↓



3

つぎの

かん字の

画数かくすうを

かん字で

書きましよう。

※教科書の巻末を活用させる。
※筆順への意識をもたせる。

(13)

足

()

七

()

画かく

(10)

風

()

九

()

画かく

(7)

線

()

十五

()

画かく

(4)

紙

()

十

()

画かく

(1)

口

()

三

()

画かく

(14)

声

()

七

()

画かく

(11)

学

()

八

()

画かく

(8)

読

()

十四

()

画かく

(5)

名

()

六

()

画かく

(2)

子

()

三

()

画かく

(15)

校

()

十

()

画かく

(12)

数

()

十三

()

画かく

(9)

画

()

八

()

画かく

(6)

町

()

七

()

画かく

(3)

円

()

四

()

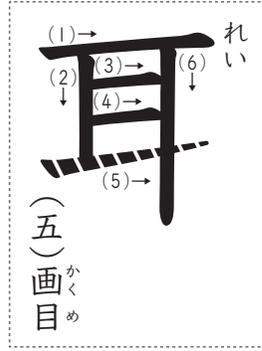
画かく



(二) かん字の ひつじゅん

― つぎの かん字の 点線の ぶぶんは 何画目でしよう。 れいを見て 何画目か かん字で 書きましよう。

※くりかえし取り組むなかで、「筆順のきまり」を身につけることができるようにさせる。



点
(一)
画目

王
(二)
画目

早
(四)
画目

中
(四)
画目

下
(二)
画目

三
(三)
画目

田
(三)
画目

金
(四)
画目

人
(二)
画目

十
(一)
画目

雨
(四)
画目

右
(一)
画目

水
(一)
画目

川
(一)
画目



かん字の 書き方には きまった じゅんじよが あります。この 書き方の じゅんじよを ひつじゅんと いいます。

かん字の ひつじゅんには つぎの ような 大きな きまりが あります。

①上から 下へ 書いて いきます。 (れい) 三 下 早 年

②左から 右へ 書いて いきます。 (れい) 川 竹 人



2 正しい ひつじゅんに ○を つけましょう。

(7)

入

() (○)

ノ ノ
入 入

(5)

正

(○) ()

一 一
正 正
正 正

(3)

女

(○) ()

く 一
女 女
女 女

(1)

車

(○) ()

一 一
車 車
車 車

(8)

生

() (○)

ノ ノ
牛 牛
牛 牛
生 生

(6)

火

() (○)

ノ ノ
人 少
火 火
火 火

(4)

五

(○) ()

一 一
五 五
五 五

(2)

左

(○) ()

一 ノ
ナ ナ
左 左



二 かたかなで 書く ことば

【教科書(上) P54~P55】

※かたかな表記のことばについて知り、正しく使うことができるようにさせる。

(一) つぎの かたかなの ことばを 下から えらんで 書きましよう。

1 外国の 地名

ブラジル

ニューヨーク

ファールブル

ニューヨーク

2 外国の 人の 名前

エジソン

ファールブル

ミンミン

3 外国から 来た ものの ことば

トライアングル

メロン

エジソン

テレビ

メロン

ケーキ

テレビ

スプーン

ペン



4 いきものの 鳴き声なごえ

ガオーツ

コケコッコ

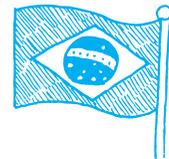
ホーホケキョ

ブラジル



ミーンミーン

ワンワン



コケコッコ

ホーホケキョ

チューチュー



チューチュー

5 音を あらわす ことば

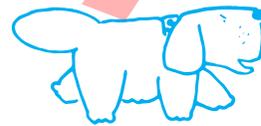
ザーザー

ドンドン

トントン

チリンチリン

ザーザー



チリンチリン

ワンワン

ケーキ

ドンドン



かたかなで 書く ことばには、つぎの ような ものが あります。

- ・ 外国がいこくの 地名ちめいや 人の 名前なまえ
- ・ 外国がいこくから 来たきた ものの ことば
- ・ 鳴き声なごえや 音を あらわす ことば

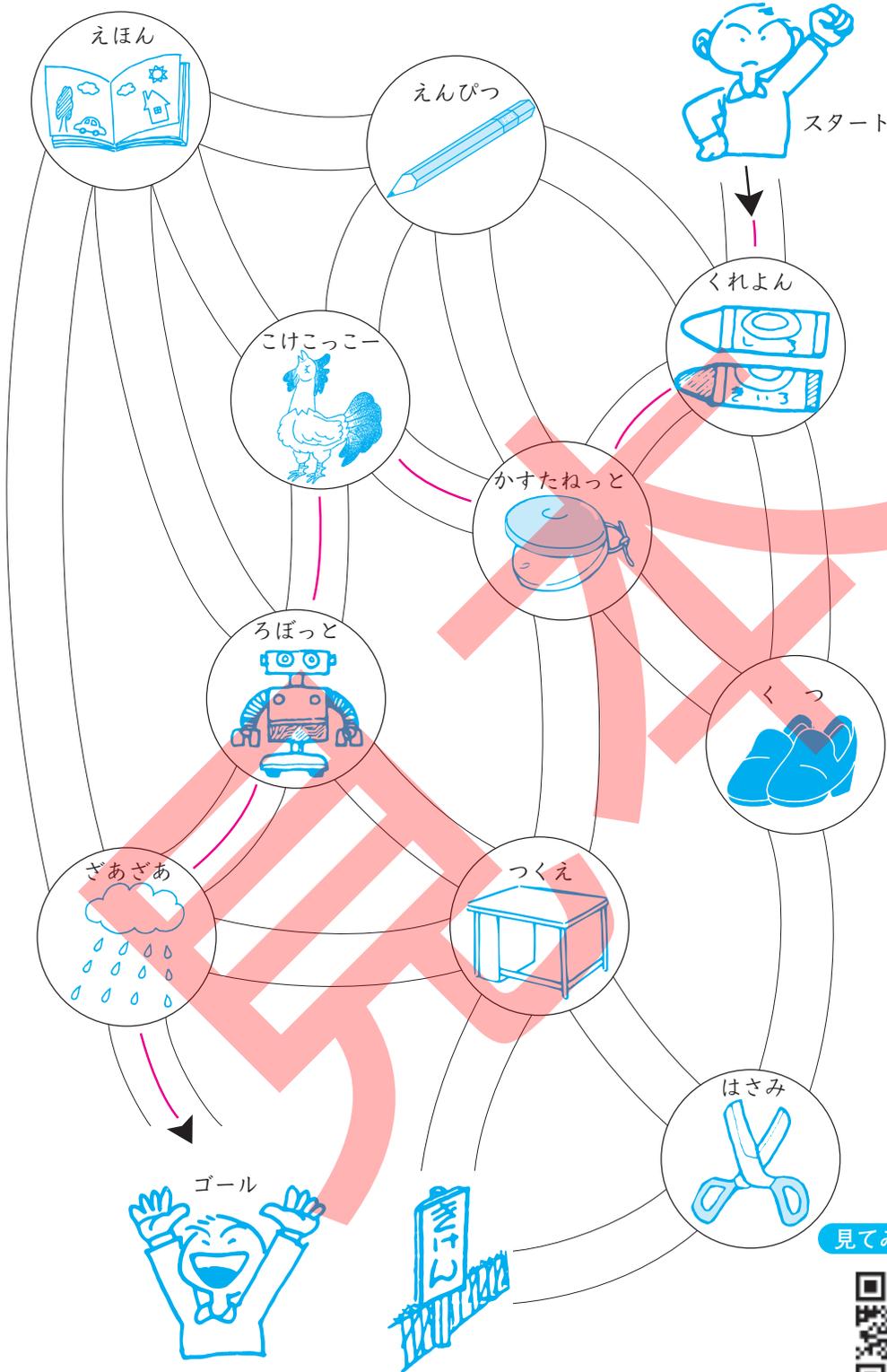


トントン



トライアングル





(二) かたかなで 書く ことばの ところを 通^{とお}って、ゴールまで いきましょう。

見てみよう



NHK for School
ことばドリル
「カタカナでかくことば」





音を あらわす ことばは、かたかなで 書きます。
 ようすを あらわす ことばは、ひらがなで 書きます。

5
 () (○)

星^{ほし}が キラキラ かがやいて いる。
 星^{ほし}が きらきら かがやいて いる。

3
 () (○)

子どもが ニコニコ わらった。
 子どもが にこにこ わらった。

1
 (○) ()

石ころが 池^{いけ}に ポチャンと おちた。
 石ころが 池^{いけ}に ぼちゃんとおちた。

6
 (○) ()

チャイムが ピンポンと 鳴る。
 チャイムが ぴんぽんと 鳴る。

4
 (○) ()

くつが ひかひか 光る。
 くつが ピカピカ 光る。

2
 () (○)

電子レンジが ちいんと 鳴った。
 電子レンジが チーンと 鳴った。

(三) の ことばの 書き方が 正しい 方に ○を つけましょう。

※擬声語(擬音語)と擬態語の使い分けに 気づかせる。

見てみよう



NHK for School
 ことばドリル

「きゅっきゅつ と ぎゅっきゅつ」



(四) のばして 読む ことばが、正しく 書いて ある 方に ○を つけましょう。

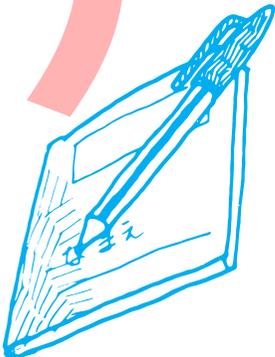
1 わたしは、
 (○) ()
 ジュース ジュウス
 を
 () (○)
 ストロウ ストロー
 で のみました。

2 ぼくは、
 () (○)
 ノウト ノート
 に、
 () (○)
 ボウルペン ボールペン
 で 文字を 書きました。

3
 () (○)
 クリイム クリーム
 が
 たっぷりのった
 (○) ()
 ケーキ ケエキ
 は、おいしい。

4 あしたの 体いくは、
 (○) ()
 プール プウル
 で およぎます。

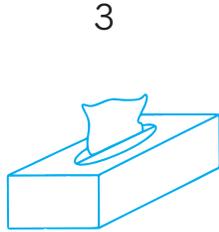
かたかなで のばす 音を 書く ときには、「ー」をつかいます。





かたかなでは、ア、イ、ウ、エ、オを 小さく 書きあらわす ことが あります。

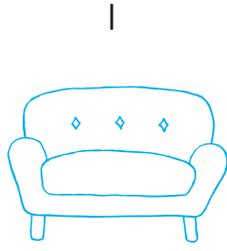
※ウを小さく書きあらわすことには、「ハッピーパースデー トゥー」などがある。



ティッシュ (ペーパー)

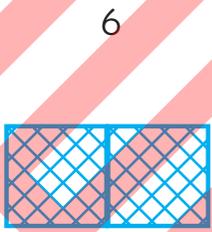


パフェ



ソファ

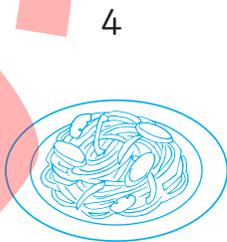
ファ
テイ
フェ
フォ



フェンス



フォーク



スパゲッティ

(五) つぎの 絵は 何でしょう。 の 中の かたかなを つかって 書きましょう。



(六)

つぎの 文の 中から かたかなで 書く ことばを 見つけて ー を 引き、
かたかなで 書きましょう。

※身のまわりから、かたかなで書くものや、音、鳴き声を探させるとよい。

1 花だんには、ちゅうりつぷの 花が、きれいに さいて いました。

チューリップ

2 ひよこが ぴよぴよと 鳴いて いました。

ピヨピヨ

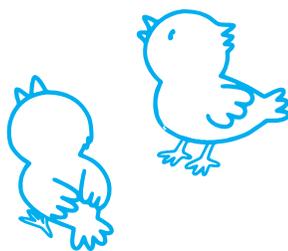
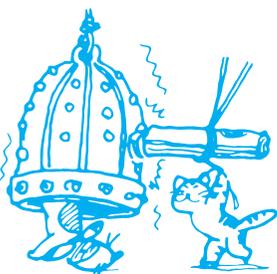
3 あめりかから とむさんが やってきました。

アメリカ

トム

4 お寺の かねが ごおんと 鳴りました。

ゴーン



の 中



三 気もちを あらわす ときに つかう ことば

【教科書(上) P76～P81】

※気持ちを表す言葉を探すときは、心で感じる言葉を考えさせる。
 ※感想文を書くときに使える言葉がたくさん集めさせるとよい。
 ※教科書には明確に位置づけられていないため参考程度に扱っているとよい。

(一) つぎの () に あてはまる ことばを から 一つ えらんで 書きましよう。

1 遠足では どこへ 行くのか () 。

くやしい

2 友だちが お休みして いて () 。

わくわくする

3 へびが 出て きて () 。

さびしい

4 さか上がりが できなくて () 。

びっくりする

5 ねがいが かなって () 。

うれしい

くやしい、わくわくする、さびしい、びっくりする、うれしい のような ことばは、気もちを あらわして います。

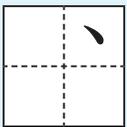
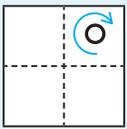
(二) 気もちを あらわす ことばを さがして 書きましよう。

かなしい、はらはらする、楽しい、どきどきする など





文を書くときは、丸(。、)や点(、)をつかいます。
 丸(。、)は、文のおわりにつけます。
 点(、)は、文のなかのきれ目につけます。



(一) 友だちが書いたかんそう文です。
 ましょう。

四 丸(。、)、点(、)、かぎ(「」)

【教科書(上) P80】

の 中 に 丸(。、) か

※内容を一つ一つおさえ、文の意味の切れるところや、文の終わるところを見つけて出させる。
 点(、)をつけて、読みやすくし

よかったね、スイミー

わたしは

図書館で「スイミー」をかりました

ス

かとう ひろみ

イミーは きょうだいがいなくなってかわいそうだと思

ました まぐろにあったとき スイミーも食べられて

しまうかと思っでとききました でも にげるこ

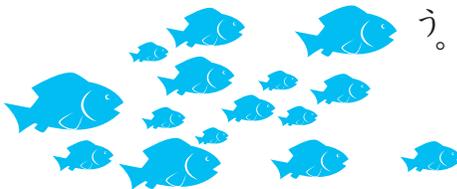
とができてよかったと思ひました

(二) かとうさんの かんそう文に

は、いくつ 文が ありますか。
 数えて みましよう。

四

つ





(二) つぎの二つの作文に「(かぎ)」をつけましょう。

※丸とかぎの表記が正しくできるようにさせる。

おばさんの 赤ちゃん

たけした みゆる

ぼくと 兄ちゃんが、「ももたろう」の

本を 読んで いたら、お父さんが 帰っ

て きました。

「おばさんの 赤ちゃんが 生まれたぞ。」

と 言ったので、ぼくは、

「男、女、どっち。」

と 聞きました。お父さんが、

「女の子だよ。いっしょに 見に 行くか。」

と 言って くれました。

ホットケーキづくり

きのう、ぼくは、「楽しい おかしづく

り」という 本を 読んで、ホットケーキ

を つくりました。

フライパンに きじを 入れると、お母

さんが、ぶつぶつと あわが 出てきたら、ひっ

くりかえしてね。」

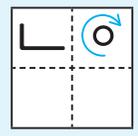
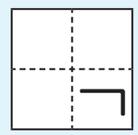
と 言いました。だから、ぼくは、フラ

イパンを じつと 見ていました。しばら

くすると、きじが 黄色っぽく なって

きました。

「(かぎ)は、文しようの 中で 会話や、お話の 名前、本の だい名などを 書くときに つけます。会話文は、行を かえて 書きます。」「の 中の 文にも。(丸)を つけます。会話の おわりの。(丸とかぎ)は、同じ ますの 中に 書きます。





ものの 名前なまえや、ことがらの 名前なまえを あらわす ことばを 「名前なまえことば」と います。

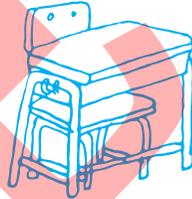
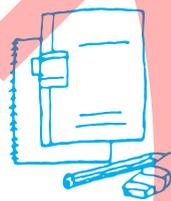
てつぼう など	ボール、とびばこ、
------------	-----------



秋	春
冬	夏

(3) うんどうに つかう ものの 名前なまえ

ノート など	えんぴつ、けしゴム、
-----------	------------



(4) きせつの 名前なまえ

オルガン、花びん など	いす、つくえ、
----------------	---------

(1) べん強きょうに つかう ものの 名前なまえ

(2) 教室きょうしつに ある ものの 名前なまえ

一 みの まわりに ある ものの 名前なまえや、ことがらの 名前なまえを あつめましょう。

(一) ものの 名前なまえや ことがらの 名前なまえを あらわす ことば

五 主語しゅごと じゅつ語じゅつご

【教科書(上) P132 ~ P133 (下) P30 ~ P31 P64 ~ P65】※「ことばあつめ」を通して、「名前なまえことば」の語意識を高める。

やってみよう



ちびむすドリル
「主語と述語」





「どうする」ということをあらわすことばを「う」
「う」
「う」といいます。

(5)



歌
う

(3)



お
こ
る

(1)



な
く

書きましよう。

「絵の ような 「どうする」ということをあらわすことばを、
の 中に

(6)



の
む

(4)



走
る

(2)



お
よ
ぐ

(二) 「どうする」ということをあらわすことば

※「ことばあつめ」を通して、「う」
「う」といいます。の語意識を
確かなものにさせる。





いいいます。

「だれが」

「だれは」

や「何が」

「何は」

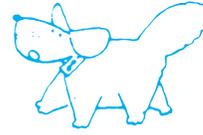
にあたる

ことばを、

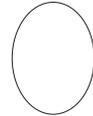
主語

(文の

あたま)と



(三)



にあてはまる ことばを、

(何が)

(どうする)



の中から えらんで 書きましよう。

※基本文型の学習を通して、文の構造の初歩を理解させる。
※主語、述語の関係に気づかせる。
※主語には名前ことばが入っていることに気づかせたい。

ね
こ
が

電
話
が

犬
が

とり
が

電
話
が

鳴
く

鳴
る

ほ
え
る

ね
こ
が

雨
が

犬
が

花
が

雨
が

と
り
が

花
が

ふ
る

と
ぶ

さ
く



(四) 絵を見て
 (だれが) に あてはまる ことばを 考え、
 の 中から えらんで 書きましょう。

(だれが)

(どう する)

兄さんが

食べる

兄さんが

なげる



兄さんが

わらう

兄さんが

走る



(五)

(何 は)

(どんなだ)



に あてはまる ことばを、



の 中から えらんで 書きましょう。

豆腐は

白い

お母さんは

きれいだ



きれいだ
 白い

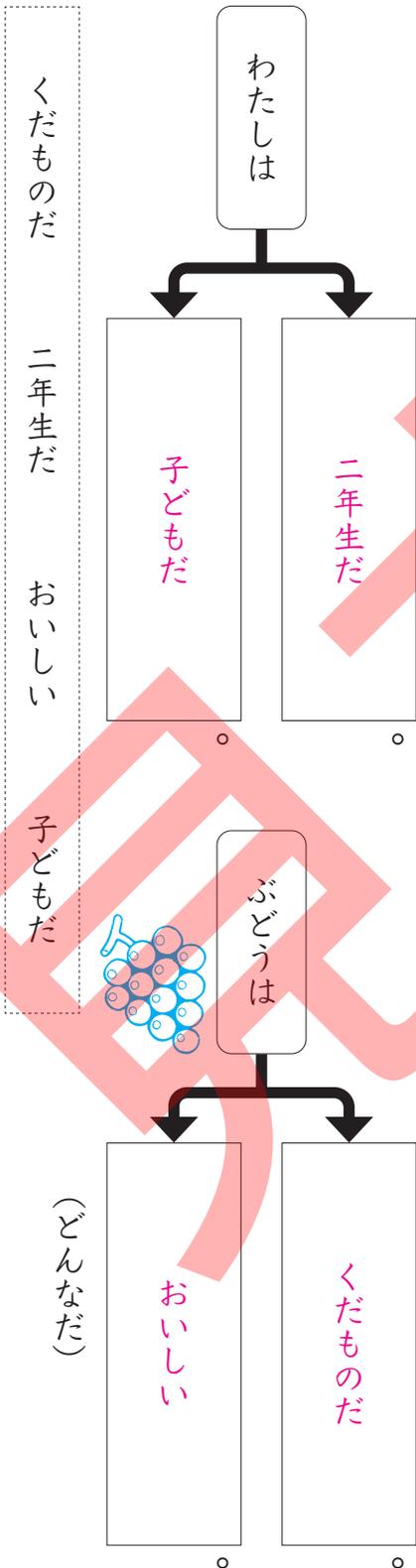
書きましょう。

走る
 なげる
 食べる
 わらう





「どうする」「どんなだ」「や」「ある」「いる」「何だ」にあたることばを、じゆつ語(文のからだ)といえます。



(六) 正しい方に ○ をつけましょう。

(何^{なに}が)

本^{ほん}が

() (○)

いる。 ある。

(だれは)

に あてはまる ことばを、

(だれが)

先生^{せんせい}が

(○) ()

いる。 ある。



※述語にはうごきことばだけでなく、
よゆうすをあらわすことばや名前ことばが入ることに気づかせたい。



(八) 絵を見て 文を作りましょう。

※ 「何が(だれが)どうする。」 「何が(だれが)どんなだ。」 「何が(だれが)ある(いる)。」
 「何が(だれが)何だ。」の四つの基本文型に気づかせる。

1 魚が (何が) (どう) する (だれが)

(例) およぐ

2 (だれが) (どう) する (何が)

(例) 男の子が もぐる。

3 トマトは (何が) (どんなだ)

(例) 赤い

4 (だれは) (どんなだ)

(例) おすもうさんは 強い。

文は、四つの なかまに 分ける ことができます。

① 何を して いるかを あらわす 文

「何が(は) どう する。」

「だれが(は) どう する。」

・ 花が さく。

・ お父さんが 走る。

② 色や 形や ようすなどを あらわす 文

「何が(は) どんなだ。」

「だれが(は) どんなだ。」

・ ひこうきは はやい。

・ 赤ちゃんは かわいい。



8

お母^{かあ}さんは

(例) かんごしだ

(だれは)

(何^{なん}だ)



7

(例) ねこは

どうぶつだ。

(何^{なに}は)

(何^{なん}だ)



6

(例) おいし^いゃんが

いる。

(だれが)

(いる)



5

(例) バナナが

ある。

(何^{なに}が)

(ある)



③ ものや 人が そこに ある (いる)

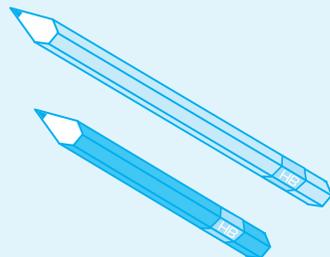
ことを あらわす 文

「何^{なに}が (は) ある。」

「だれが (は) いる。」

・ えんぴつが ある。

・ 友^{とも}だちが いる。



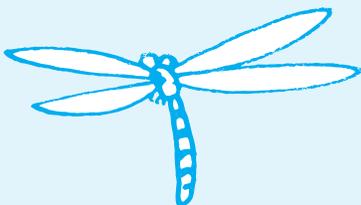
④ 何^{なん}の なかまかを あらわす 文

「何^{なに}が (は) 何^{なん}だ。」

「だれが (は) 何^{なん}だ。」

・ とんぼは こんちゆうだ。

・ お父^{とう}さんは 先生だ。





(れい) たいようが まぶしい。

文を 読んでみると、まぶしいのは たいようだと 分かります。

このように、じゅつ語の 何が(だれが)に あたるところが 主語になります。

(九)

線は、文の じゅつ語です。主語を 見つけて、線を引きましょう。

1 兄は 元気だ。

2 犬が 大声で ほえる。

3 母は いつも いそがしい。

4 遠くて 赤ちやんが なく。

5 もうすぐ 日が しずむ。

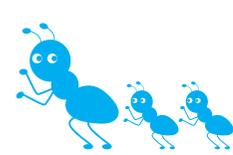
6 今朝、 花が 一りん さいた。

7 すぐそこに ありが たくさん いる。

8 ある日、 とつぜん 雨が はげしく ふった。

9 妹が へやで 歌を 歌う。

10 きのう、 わたしは お父さんと いっしょに あそんだ。



(十) つぎの 文の じゅつ語に 線をひきましょう。そして、主語に 線をひきましょう。

1 わたしは わらった。

2 花が さく。

3 クーラーが とつぜん こわれる。

4 先生は しょくいん室に いる。

5 えきで 電車が とまる。

6 いつも 姉は やさしい。

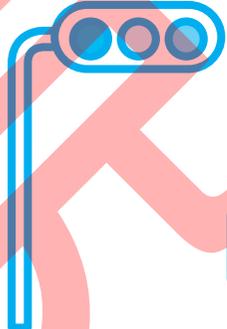
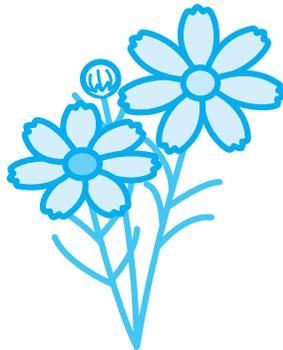
7 今日の 星空は とても うつくしい。

8 もうすぐ しんごうが 青に かわる。

9 きよ年の 四月に、 わたしは 小学校に 入学した。

10 夕日が 山に ゆっくり しずむ。

11 今日、 お母さんが 家で ケーキを 作った。



〈家ぞく〉



母



父 ちち

弟 おとうと

妹

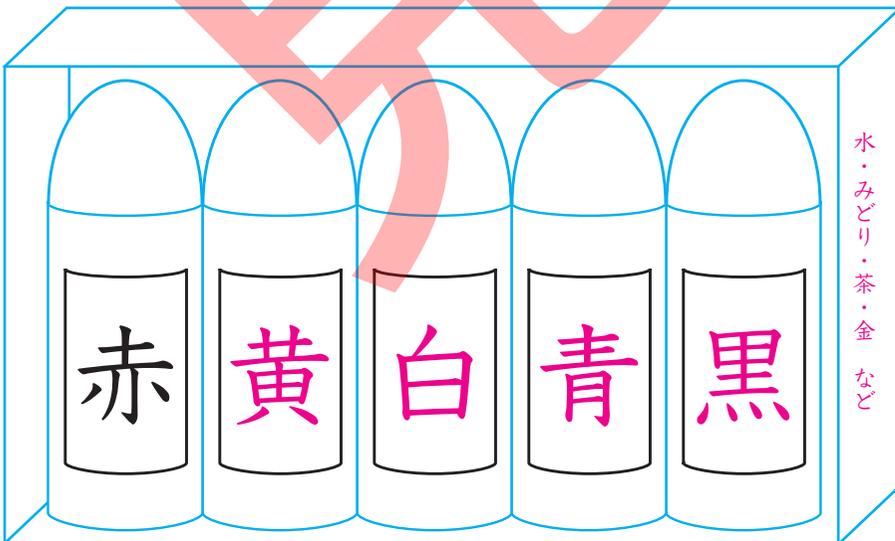
(自分) じぶん

姉 あね

兄



〈色のなかま〉



(一) なかまに なる ことばを の 中に 書きましよう。

六 なかまに なる ことば

【教科書(下) P40～P41】

※上位語と下位語を意識させるきっかけとしたい。



七 数をあらわす ことば

【教科書(下) P70】

※数えるものの種類によって、助数詞が、変わってくることに気づかせる。
 ※数え方について、一年既習のものの数え方について振り返る。

(一)

□ に あてはまる ことばを、

□ の 中から えらんで 書きましょう。

1 ぼくは、えんぴつを 十

□

買いました。

2 ふでばこに、けしゴムが 三

□

入っていました。

3 おり紙が 五

□

足りません。

4 ちゅう車場に、車が 七

□

とまっています。

5 男の子が 三

□

います。



足 人 本 台 さい けん ひき さい けん ひき





ものを数えるときは、数のあとに、ものによってきまったことばをつけます。

6 ハムスターをニ

そだてて います。



7 山おくに、家がー

たつて いました。



8 たん生日がくると、ハ

に なります。



9 げんかんに、くつがニ

あります。



10 本を 四

かりました。



ちよつと むずかしい 数えかた

・ふく

…



ちやく

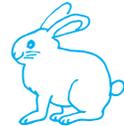


・鳥やうさぎ

…



わ



・牛などの大きなどうぶつ

…



とう



・はさみやどうふ

…



ちよう



・はし

…



ぜん



八 かん字の読み方とおくりがな

【教科書(下) P78~P79】

※漢字の読み方をはっきりさせるために、送りがなが大切であることを理解させる。

(一) つぎの文の — のかん字に読みがなをつけましょう。

2	1
少 すこ 少 あそぶ。	だ んを 上 あがる。
人 が 少 すくない。	さ かを 上 のぼる。
3	
さ か道 みちを 下 くだる。	ね つが 下 さがる。
へ やの お んどを 下 さげる。	た なから にも つを 下 おろす。
	は しごを 下 おりる。



かん字にはいくつもの読み方があります。「下がる」の「がる」、「下ろす」の「ろす」などをおくりがなと違います。おくりがなはかん字の読み方やいみをはっきりさせます。



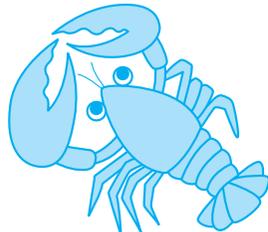
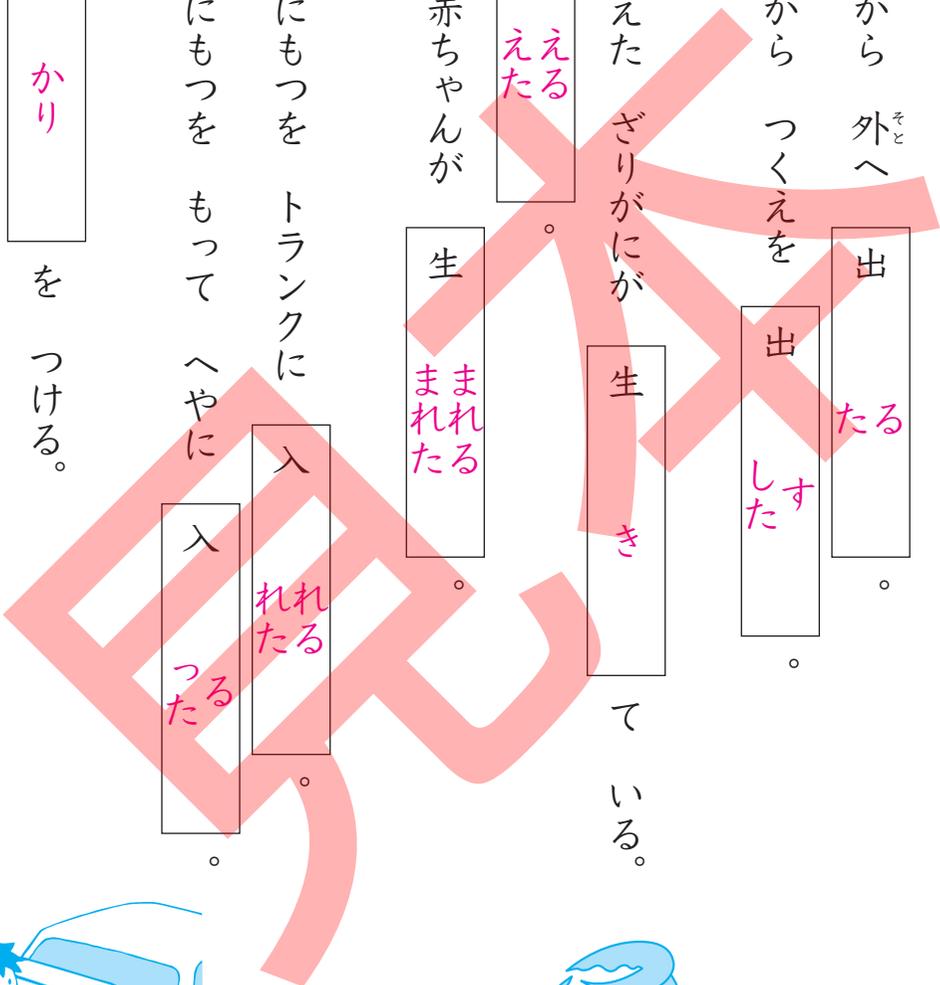
(二) かん字の読みがなに 気をつけて、おくりがなを つけましょう。

1
 ぼくは 教室きょうしつから 外そとへ 出でた。
 ぼくは 教室きょうしつから つくえを 出でした。

2
 川で つかまえた ざりがにが 生なままれている。
 草が 生なままられたる。
 ざりがにの 赤ちやんが 生なままられたる。

3
 お父とうさんは にもつを トランクに 入いれたる。
 お父とうさんは にもつを もって へやに 入いったる。

4
 いえの 明あかり を つける。
 へやの 中なかは 明あかりが ついた。



九 はんたいの いみの ことば

【教科書(下) P92～P93】

(一) はんたいの いみを あらわす ことばを から えらんで 書きましよう。

5	みじかい	↑↓	長い
4	広い <small>ひろ</small>	↑↓	せまい
3	おもい	↑↓	かるい
2	右	↑↓	左
1	大きい	↑↓	小さい

せまい 小さい ながい
かるい 左

(二) つぎの — の ことばと はんたいの いみを あらわす ことばを 書きましよう。

2	ねだんが 高い <small>たか</small> 。	↑↓	やすい
1	山が 高い <small>たか</small> 。	↑↓	ひくい
	おちやが あつい。	↑↓	つめたい
	この へやは あつい。	↑↓	さむい
	この 本は あつい。	↑↓	うすい

※反対の意味を明確に示すために、具体物を見せたり、動作化させるとよい。

見てみよう



NHK for School
ことばドリル
「はんたいのことば」



十 こえ 声に 出して みよう

【教科書(下) PI02 ~ PI03】

※手を打つ動作を通して、音節と結びつけて指導するとよい。
 ※拗音は一音節二文字を一拍で数える。〔例〕しや
 ※拗長音は、一音節三文字を二拍で数える。〔例〕びよう

(一) つぎの ことばを 手を たたきながら 言って みましょう。

だいこん
すずめ

「だいこん」は 四回、「すずめ」は 三回 手を たたきます。

1 つぎの ことばは、何回 手を たたくか、声に 出して 言って みましょう。

また その回数を () にかん字で 書きましたよう。

(1) すしや

(三) 回



(2) ぬいぐるみ

(五) 回



(3) いしや

(二) 回



(4) ジャンプ

(三) 回



(5) そうめん

(四) 回



(6) かっぱ

(二) 回



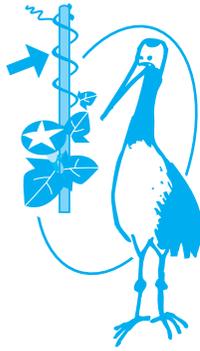
(二) 声こゑに 出して、 ちがいを たしかめましょう。

「ほうきで はく」 「くつを はく」

二つの「はく」は 字は 同おなじですが、
 同じ ことばでは ありません。音の高たかさによつて いみの
 ちがう ことばに なります。

1 つぎの ことばを 声こゑに 出して、 音の高たかさを たしかめましょう。

(1) つる



(2) いっぱい



(3) あめ



(4) きる



※ことばを声に出して言わせ、同じ字でも音の高さ
 によつて異なる意味の言葉になることをおさえる。
 ※他にもあるか問いかけるとよい。



音の高たかさに 気をつけて読よむことができた

よくできた 

できた 

もうすこし 





同じ ところの ある かん字は、にた いみをもつて いる ことが あります。

7	5	3	1
作	週	林	読
休	通	校	話
体	遠	村	語
など	など	など	など
8	6	4	2
池	草	字	教
海	花	室	数
汽	茶	空	など
など	など	など	

※空は正確にはうかんむりではないが、子どもが選んだ場合は認める。



(一) 同じ ところの ある かん字を あつめましょう。

十一 同じ ところの ある かん字、かたちのにている かん字
 【教科書(上) P73、P131 (下) P91、P131】



(二)

形かたちが

よく

にた

かん字を、

から

えらんで

正しく

書かきましよう。

6

止 上

1

学 字

7

工 土

2

東 車

8

走 足

3

体 休

4

黒 里

5

地 池

地	走
体	黒
学	東
工	止





十二 組み合わせたことば

※複合動詞の構成や意味を理解させ、ことばに関心をもたせる。
※教科書には明確に位置づけられていないため、参考程度に扱うとよい。

①の文と ②の文の ——— のことばを くらべて みましょう。

① 自分の にもつを もって 帰る。

② 自分の にもつを もち帰る。

②は、①と同じ ことを 一つの ことばで 言いあらわして います。

もつ + 帰る ↓ もち帰る

「もち帰る」は 二つの ことばを 組み合わせた ことばです。

(一) 二つの ことばを 組み合わせて 一つのことばを つくりましょう。

ひろう	+	あつめる	↓	ひろいあつめる
-----	---	------	---	---------

切る	+	たおす	↓	切りたおす
----	---	-----	---	-------

立つ	+	上がる	↓	立ち上がる
----	---	-----	---	-------



(二) ——— の ことばを、組み合わせて 一つの ことばを つくりましょう。

1 石を もって 上げる。

もち上げる

2 台の上から、とんで 下りる。

とび下りる

3 うんどう場を 走って 回る。

走り回る

4 新聞を つんで かさねる。

つみかさねる

5 雪が ふって つもる。

ふりつもる

(三) に あてはまる ことばを

の 中から えらんで 書きましょう。

1 小川を とびこえる

あらいながす

2 はり金を おりまげる

とびこえる

3 だろを あらいながす

おりまげる

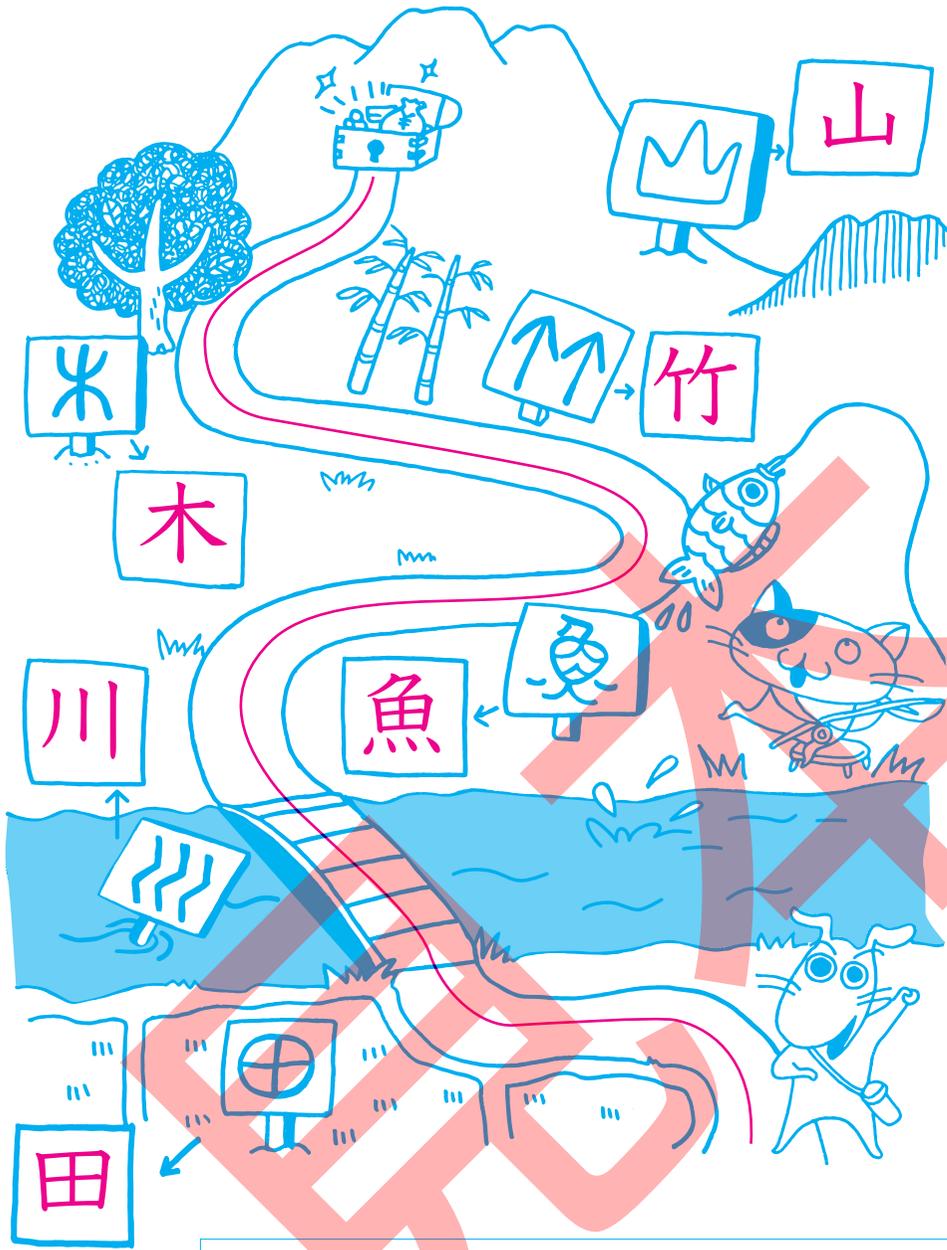
4 おかしを 食べおわる

食べおわる



かん字の山のぼり

絵文字を かん字に なおして、山の ちよう上まで 行ってみよう。



令和6年度版 ことばのきまり 2年

編集 「ことばのきまり」編集委員会
三河教育研究会

刊行 公益財団法人愛知教育文化振興会
〒444-0868 岡崎市明大寺町字馬場東170番地1
電話 0564-51-4819

印刷 株式会社 岡田印刷

※無断で複写・複製することを禁じます。

※外部ホームページリンク先は、予告なく変更・削除されることもあります。



名前

年

組

見本